あなたのキャリアをステップアップ！

国内企業との共同研究における
研究者1人当たりの研究費受入額
全国第5位
大学ファクトブック2025
（日本経団連／経産省／文科省）

社会人博士を目指しませんか

社会人としての経験を活かし、さらなる専門知識を身につけるチャンスです。博士後期課程入学（ドクター学位の取得）は、あなたのキャリアを飛躍させます。

豊橋技術科学大学は、1976年の創設以来、実践重視の教育を推進し、現在は5つの専門分野を中心としながら農工・医工連携など異分野融合研究、社会実装研究にも積極的に取り組んでいます。大学院に重点を置き、企業や海外協定校等との共同研究による連携を通して、グローバルなイノベーションを起こせる人材の育成に努め、世界に開かれたトップクラスの工科系大学を目指しています。

柔軟な履修制度

博士後期課程は標準３年間の課程ですが、長期履修制度を利用することで、最長６年間まで延長できるほか、充分な実績がある場合は最短１年で修了することも可能です。

オンライン授業による単位取得

授業単位の一部をオンラインで取得できます。

大学の最新設備の利用

大学には世界トップクラスの次世代半導体・センサの研究開発を行う次世代半導体・センサ科学研究所をはじめとするリサーチセンターの大型実験装置や実習工場など、様々な研究機器があり、恵まれた研究環境となっています。

教員マッチング

共同研究の実施担当教員のほか、希望する分野に所属する教員とのマッチングにより指導教員を決定します。また複数指導教員制によるサポートも行っています。

学生との交流

本学大学院には留学生も多く在籍します。研究室内外において若手研究者として活躍する様々なバックグラウンドを持つ学生と広く交流することで、新たな視点に気づくなど互いに影響しあう貴重な経験の機会が得られます。

【問合せ先】
詳しい情報や相談は、以下の連絡先までお気軽にお問い合わせください。
国立大学法人豊橋技術科学大学　教務課・教育企画係
TEL：0532(44)6542　Email：kikcho@office.tut.ac.jp

ADVANTAGE 入学のメリット

研究の機会
自身の興味ある研究だけでなく、他分野の教員・学生との交流により知見を広めることができます。

博士取得
グローバルな取引・折衝には名刺の「Ph.D.」は効果があります。

キャリアアップ
博士号取得により専門性が高まり、企業内での待遇面で有利に働きます。

SCHEDULE 入試スケジュール

研究内容・計画及び出願手続き等について、希望する指導教員と必ず事前に打合せを行ってください。

第２次募集

	6月上旬	8月上旬	8月下旬	9月中旬	11月上旬	12月中旬	2月上旬	2月中旬
第１次募集	入学資格審査	願書受付	選考	合格発表	入学資格審査	願書受付	選考	合格発表

ADMISSIONS 入試案内

入試に関する情報は、教務課・入試室

修士の学位を取得していなくても、企業等での実績による入学資格審査により博士入試を受験することもできます。

大学院工学研究科博士後期課程社会人入試の募集要項はこちら⇒ https://www.tut.ac.jp/exam/entrance/news.html

INTERVIEW 社会人博士修了生インタビュー「理論がなければ超えられない壁がある」

住友ゴム工業株式会社に勤務しながら、豊橋技術科学大学の社会人博士後期課程を修了した中西さん。エンジニアとして、なぜ博士号取得に挑んだのか。実際の経験をもとに、その道のりと想いを伺いました。

● なぜ博士を目指したのか

実験データを深く解析し、モデル化する場面で限界を感じることが何度かありました。単なる経験や感覚知ではなく、理論に裏付けされた知見が必要だと感じ、社会人博士を志しました。また、この分野のスペシャリストになりたいという気持ちも強くありました。

● なぜ豊橋技術科学大学を選んだのか

教授の研究内容が、まさに私が関心のある分野と重なっていました。共同研究を通じて関係性もあったため、信頼して相談できる安心感がありました。 他大学とも比較しましたが、『社会人博士に力を入れている』という明確な姿勢を感じ、最終的な決断につながりました。

● 両立のリアル。テーマ設定の重要性と職場・家族の理解

最初の半年は本当に大変でした。業務が落ち着かず、研究が進まず……。しかし、会社側の協力もあり、徐々に研究との両立が可能になっていきました。特に重要なのは“研究テーマ選び”です。自分が強く関心を持てるテーマでないと、どこかで挫折してしまいます。また、家族の理解も不可欠でした。

● 得られたものは、知識以上の視座

博士後期課程を経て変わったのは、視点の高さです。例えば、課題に取り組む際には、まず世界中の論文や最新の技術動向を調べ、既存の知識との差分を見極めるようになりました。それにより、自社内だけで通用する答えではなく、業界や社会全体で価値のあるアウトプットを目指すようになりました。結果として、社内外での評価にもつながっています。

● 社外での信頼、広がるキャリア

名刺に“Ph.D.”とあることで、学会や商談先で信頼感が高まったと感じる場面があります。また、今まで出会えなかったような、さまざまな分野で活躍する研究者との新たなつながりも増え、人脈も広がりました。

● 技術者にこそ「社会人博士」という道を

現場経験がある技術者が、理論を身につければ最強です。今後、業界全体が変化・高度化する中で、“実務と理論”の両方を理解する人材がますます必要になります。私自身、その一端を担いたいと考えています。

● 社会人博士を目指す方へ

テーマ設定は、何より“自分が強く興味を持てるか”が重要です。やらされ感では絶対に続きません。また、指導教員との相性も非常に大切です。事前に論文や発表を調べるだけでなく、実際に話してみることで“この先生となら一緒にやっていける”という確信が得られれば、大きな支えになります。

● 最後に

「企業の中で働きながらでも、自分の専門性を磨き、業界全体に貢献できる力を身につけることはできます。」中西さんのお話から、専門性の深化とキャリアの自律を両立させる“社会人博士”という選択肢の可能性の魅力を知ることができました。

中西 亮太 さん